

平成 26 年度事業報告書

平成 26 年度の日本経済は、当初は消費税増税から落ち込み傾向にありましたが、徐々に持ち直しているとされています。雇用や所得関係も良くなり、生産や個人消費も改善の兆しで、日本経済は緩やかな回復傾向になったと言われていています。しかし、経済効果は、企業や公的機関などへの支援が中心で、家庭やシルバー人材センターなどにとっては、大きな改善の効果を実感できない状況でした。

また、政府が次の消費税増税の時期を先延ばししたことが、今後の日本経済にどう影響してくるか、見極める必要があります。

このような状況のなかで、当センターでは、働く意欲のある高齢者が就業や地域貢献の活動を通して、より豊かな生活と社会参加による生きがいの充実を目指している団体として広報活動を行い、会員数と契約実績の増大に努めました。

会員数については、センターでの入会説明会のほか、地域に出向いての出張入会説明会を実施し、会員の増強に努めました。しかし、高齢者のニーズの多様化や生活・経済状況の変化などから、センターに入会を希望する市民が増加していない状況にあります。一方で病気や加齢などの理由での退会者が多く、最終的に会員数は若干の増にとどまりました。

契約について、厳しい経済情勢のなかで新規契約の獲得などに努めましたが、法令順守のための適正な請負契約の推進などにより、請負としてなじまない業務は、契約できないものもありました。また、民間企業との厳しい競争などもあり、契約実績は前年度を下回りました。

センターは、平成 26 年度も公益社団法人として、適法・適正な経営に努めました。そして、第 3 次中期計画で掲げた「就業機会の拡大」、「センター基盤の強化」、「地域社会との共生」の重点目標を推進する活動を行いました。当センター事業の推進に際し、三鷹市、東京都、国から深いご理解とともに多大な支援をいただいたことに深く感謝いたします。

1 事業概要

平成 26 年度における三鷹市シルバー人材センターの事業概要は、次のとおりです。なお、()内は前年度の実績です。

会員数 1,591 人 (1,584 人)

	男 970 人(968 人)	女 621 人(616 人)
受託件数	11,178 件	(10,923 件)
契約金額	5 億 7,485 万円	(5 億 8,920 万円)
うち公共事業	1 億 1,140 万円	(1 億 1,839 万円)
うち民間事業	4 億 6,345 万円	(4 億 7,081 万円)
配分金	5 億 0,746 万円	(5 億 2,316 万円)
就業延人員	183,428 人	(188,552 人)
就業実人員	1,284 人	(1,260 人)
就業率	80.7%	(79.5%)

これを前年度（平成 25 年度）の実績と比べますと、
 会員数は 7 人(0.4%)の増、受託件数は 255 件(2.3%)の増、契約金額は 1,435 万円(2.4%)の減で、内訳は公共事業で 699 万円(5.9%)の減、民間事業では 736 万円(1.6%)の減でした。配分金では 1,570 万円(3.0%)の減で、就業実人員は 24 人(1.9%)の増となり、就業率は 1.2 ポイントの増でした。

2 事業報告

(1) 就業開拓提供事業

ア 第 3 次中期計画の重点目標で、第一番目に掲げている「就業機会の拡大」は、センターにとって最重要な事項ですので、就業開拓事業に取り組みました。具体的には、就業委員会が中心となり、高齢者介護施設等を訪問して出張生涯学習教室の提供の働きかけを行う活動や、マンション管理業務、施設清掃業務などの開拓、既存の発注者への訪問活動などを実施して業務拡大に努めました。また、新しい事業として、「シルバー写真館」事業の検討を行いました。

公共事業については、諸活動の結果、市から新たに上連雀交通公園管理業務の契約を受託しました。

イ 適正就業について、就業現場の確認や契約書の内容精査を行い、法令の順守に努めました。

ウ チョットサービスの包丁砥ぎは、拡大の取り組みを行った結果、井口班、中原班のほか、下連雀 2 班、牟礼 1・2 班、大沢班でも実施して好評を博しました。

(2) 普及啓発事業

ア 地域社会に向けてセンター事業を広く宣伝することにより、就業等を通して社会参加を希望する高齢者への入会促進に努めまし

た。

イ 会員の丁寧で質のよい仕事ぶりや社会奉仕活動などの取り組みを通して地域の住民、事業所等の信頼を確保し、シルバー活動の普及啓発に努めました。

ウ ホームページの更新、「広報みたか」等市の刊行物によるPR、ケーブルテレビの活用、パンフレットの配付、チラシの市内全戸配付、他機関との共同PR活動、市役所ロビーでのシルバー人材センター展の開催、当センター2階で実施した生涯学習教室の作品展の開催などで、より多くの市民にセンターの存在を知っていただけるよう努めました。

エ 地域班独自の活動として、公園清掃や野川・仙川などの地域清掃ボランティアを実施し、また児童の登下校に際し安全を見守る児童安全パトロールに約300人の会員が参加するなど、それぞれ地域に密着した活動を積極的に行いました。

オ センター全体の活動として、市内一斉清掃ボランティア活動を行いました。全地域班が同一日時で清掃活動を実施し、多くの市民から感謝されました。

カ 市民の行事として定着している「三鷹阿波おどり」「三鷹市民駅伝大会」に参加し、シルバーパワーをアピールしました。

キ 機関紙「かけはし」「事務局ニュース」「地域班だより」「ふれあい」の発行、地域班長会での理事会報告など、会員に対しセンターの活動や会員活動、就業情報の提供に努めました。

ク 植木班では、シルバー活動の普及啓発を念頭に、恒例の正月の門松作りを実施し、市役所、介護老人保健施設や特別養護老人ホームに贈呈し、感謝されました。

(3) 研修・講習事業

ア 会員がセンターの基本理念等を理解・賛同すること及び就業・社会奉仕活動等に必要な知識や技能を修得することで、質の高いサービスの提供を実現し、さらに新たな就業機会を確保するために、研修・講習事業を下記のとおり実施いたしました。

「役員、地域班長及び連絡員研修」において、センターの重要な課題である「適正就業」についての研修を実施し、より適正な請負事業の推進のための共通理解を深めるように努めました。

また、地域班長・連絡員会議の場を利用し、センターの各種情報を共有する研修を行い、今年度に地域班長・連絡員になった人への研修会も実施しました。

(ア) センター独自の研修事業	参加者数	
役員、地域班長及び連絡員等研修 「適正就業について」	9月11日	101人
地域班長・連絡員会議研修	5回	418人
新任地域班長・連絡員研修	1回	22人
ホームヘルパー研修	9回	333人
新入会員研修	12回	175人
会員研修「コミュニケーション」	3回	48人
植木班定例研修	11回	296人
 (イ) 合同研修 (第5ブロック)		
理事研修「シルバー人材センターの魅力再生」		2月3日
安全講習会「自動車・自転車安全運転」		10月28日
会員研修「高齢者を狙う悪質商法」		2月24日
 (ウ) 連合及び全シ協主催研修		
安全リーダー研修		7月17日
代表理事・常務理事研修		1月21日

(4) 調査研究事業

- ア 自主事業について、現在の事業の評価や市民ニーズとのマッチングを検証し、業績の改善に努めました。
- イ 今年度から始まった第3次中期計画について、各部会、委員会、職群班等から報告を受け、計画の進捗状況の調査を行いました。
- ウ 適正就業をさらに推進するため、各種業務内容の確認や契約書内容の見直しなどを行って、法令遵守に努めました。

(5) 相談事業

- ア 入会を希望する高齢者に対して、センター施設内で毎月2回の入会説明会を実施し、地域での出張入会説明会も年2回開催しました。入会説明会では、仕事の体験談スピーチや、これまで事務局が行っていたセンターの概要説明も理事が行いました。また、常時、市民及び会員を対象とした就業相談を実施しました。
- イ 市の外郭団体と共同で、一般市民を対象とした相談会を開催し、定年後の就業や地域参加を希望する市民へ情報を提供しました。

(6) 安全就業推進事業

- ア 安全は、高齢者が就業等の活動を通じて社会参加をするうえで

最も重要な課題と認識し、高齢者が健康で安心して就業等の活動に専念できるよう、安全意識の徹底と事故防止に努めました。

平成 26 年度の事故の発生件数は 10 件で、前年度より 3 件少なくなりました。これは、安全管理委員会や安全リーダーによる事故防止の活動と、会員の事故防止意識の向上の結果です。

しかしながら、ちょっとした段差で転ぶ事故や、自転車で転倒する事故などが発生していますので、今後も事故ゼロを目指して活動を進めます。

イ 安全就業のしおり・安全就業基準の配付や、安全標語の募集、安全ニュースの発行、安全リーダー研修の実施等により、事故防止の意識啓発に努めました。また、安全就業基準（屋内清掃編）の策定を行いました。

ウ 「健康・安全の日」、「重篤事故防止の日」の就業会員全員を対象とした安全ワッペンの着用による安全意識の高揚の取り組みや就業現場への安全パトロールなど、とくに重篤事故の防止に配慮しながら会員の安全就業の徹底に努めました。